

令和8年度「学びを支える」特別支援教育充実研修会A

令和8年6月8日（月）、管内の小・中学校の全教職員を対象に、令和8年度「学びを支える」特別支援教育充実研修会Aをハイブリッド型の形式で開催しました。

今年度は京都府スーパーサポートセンター専門家チーム委員でもある香川大学 教授 坂井 聡 様から、「子どもファーストの支援とは～必要な支援と適切な指導～」と題して、社会モデルの考え方やその実現のためにはどんなことを考え、意識すべきなのか等、講師の先生御自身の御経験に基づく具体的な事例の提示や、対話を取り入れながら、大変わかりやすく御教示いただく時間になりました。

講義では「教員自身が子どもにとっての『環境』であり、教育活動への参加を妨げる『障害』になっていないか」と投げかけられ、受講者は自身の実践について考えると同時に、自身の学校でどうしていくべきなのか、これから何ができるのか等、特別支援教育に対する捉え方を見つめ直し、子どもたちの学びの環境をどうつくるかについて考えるきっかけになりました。

この研修会を機に、どの学びの場においてもインクルーシブ教育の視点をもって教育活動が進められ、丹後地域の特別支援教育がますます充実していくことを期待します。

《感想》

- ・ 自分が支援を考えるときに、子どもファーストではなく、教師本位になっていないかを考えさせられました。
- ・ 「こうでなければならない」という考えを一度手放して、子どもたちみんなが参加できる環境や方法をつくっていく考え方を校内に発信したい。
- ・ 環境の一つに教員もいて、その教員が共感的に関わることで、肯定される安心感が生まれ、環境をよりよくしていくのだと思う。

